



走れ向陽!

〈教育目標〉

「知性」「品格」「至誠」「体力」を身につけた活力ある生徒

相馬市立向陽中学校 学校だより

〒976-0037

相馬市中野字寺前76

TEL:35-2348 FAX:35-2849 第17号

発行 責任者：校長 反畑増生

令和4年1月11日(火)

第3学期がスタート!

1月11日(火)によいよ第3学期がスタートしました。当日は新型コロナウイルス感染症対策のために、各教室において校内放送による始業式を行いました。式終了後に、各学年を代表して1人ずつ、3名の生徒が3学期(新年)の抱負を述べました。

3学期は49日間(3年生は42日間)と1年間で最も短い学期となりますが、高校入試や卒業式、修了式なども予定されており、年度の締めくくりの期間ともなります。本学期もこれまでと同様に保護者の皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

なお、本日、実施した3学期始業式において、校長から式辞として下記の内容の話をさせて頂きました。式辞の一部は次のとおりです。

～ 私がいつも目標を立てる際に大切にしていることは、まず最初に大きな目標として自分がめざすべき方向性についての目標を立てます。例えば、「子供たちの笑顔がたくさんみられる学校を作りたい」そして、その後に、その目標を達成するために必要な具体的な目標を複数立てることにしています。例えば「なるべく多くの生徒と話をする」、「必ず毎日、全校生の生活の様子を確認する」などといったようにです。

話しは変わりますが、私が尊敬している歴史上の人物に、江戸時代、現在の福島県の白河地方を治めていた大名である松平定信という人がいます。中学校の歴史の教科書にも載っている人物なので皆さんも一度は聞いたことがある人だと思います。松平定信は、当初東北地方の白河藩を治める一大名でしかなかったのですが、やがてその豊かな才能が幕府から評価され、国の政治を動かす老中という職に抜擢されます。そして、貧困に苦しむ国民を救うべく江戸三大改革の一つである寛政の改革を推し進めます。しかし、進め方があまりにも急だったために周りから猛反発され、やがて老中の座を追われ、故郷の白河に戻る事となります。私が定信に尊敬の念を抱いたのは、この後の彼の生き方についてです。定信は、白河藩に戻ると幕府を追放されたということは何ら気にかけることもなく、領民を幸せにするために残りの人生の全てを賭けたといわれています。通常であれば夢にやぶれ自暴自棄になってもおかしくない中で、最後まで自らの職務に全力を尽くしたのです。考えて見るに、おそらく定信にとって彼の立てた大きな目標は「老中になる」ではなく「人々を幸せにする」だったのではないかと思います。だからこそ、幕府を追われたといっても、目の前の白河藩の領民を幸せにできれば定信にとっては、それでよかったのではないかと思います。

目標が達成できないということは往々にしてあります。大切な事は、目先の目標を達成できたかできなかったかではなく、達成することに全力を尽くす、姿勢であり、さらには、大きな目標として自分がどう生きたいか、どういう人間になりたいのか、そういった方向性を示す目標をしっかりと自分の中で持っているかということだと思います。ぜひ、令和4年、目先の目標の達成に一喜一憂するのではなく、皆さんがこれからどう生きていきたいのか、どういう人間になりたいのか、そういった方向性を示す大きな目標をこの年の始まりに立て、その達成に向けて全力を尽くして欲しいと思います。～

(3学期始業式校長式辞より一部抜粋)

2 学期の反省

2 学期終業式終了後に全校放送により、各学年代表生徒 1 名から「2 学期の反省」についての発表を行なってもらいました。その際の 3 年生代表生徒の発表は下記の内容となります。

なお、始業式終了後に行なった代表生徒による「3 学期の抱負」の発表内容については次回の学校だよりで紹介させていただきます。

「2 学期の反省」

1 年の中で、一番長かった 2 学期も終わりを迎えようとしています。今学期は私にとって長いようで短いような期間でした。私の 2 学期の反省は大きく 2 つあります。

1 つ目は、学習です。私は、学習を計画的に進める事が出来ず、結果があまり良くありませんでした。その原因は、苦手科目に真剣に向き合うことが出来ていなかったことにあります。だから、冬休みは、この反省を生かし、苦手教科の克服に力を入れたいです。

2 つ目は、生活面です。私は学級委員長としてクラスを見てきて、協力的になれていなかったことが反省点です。みんなの意見ばかりに頼ってしまい、委員長としてクラスのみんなには申し訳なく思います。私をいろいろな場面でサポートしてくれたクラスのみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、2 学期の中で特に印象に残っているのは、私たち 3 年生にとっては最後となった向陽祭です。私は向陽祭で学んだことがありました。それは、制限がある中でも、それを感じさせない発表ができるということです。今年も新型コロナウイルス感染症拡大、そして新たにオミクロン株という変異株の発生により、学校生活や学校行事にさらに制限がかかってしまいました。年に一度の向陽祭も限られた中で何ができるかと不安でした。そんな中、生徒会の皆さんは、様々な企画を考えてくれました。特に生徒会長とのルービックキューブ対決は印象に残っています。3 年生の学年発表ではトラブルなどもあったかもしれませんが、クラス全体がどうすれば楽しませる事が出来るかを考え、自分たちなりの発表をすることができ、一番の思い出となりました。今の状況では、今後も様々な制限がかかると思います。しかし、制限にとらわれることなく、その中で自分たちができることを考え、工夫し、仲間と共有し合い実行していく大切さを学ぶことが出来ました。

3 学期に入ると、私たち 3 年生は、いよいよ受験が迫ってきます。冬休みは、2 学期に学んだことや、これまでの学習の反省や積み重ねを生かし、入試本番に全力を発揮できるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと想います。

(3 年生代表生徒の発表より)



<これからの主な行事>

- 1 月 1 2 日 (水) ・相馬市学力調査 ・生徒会各種委員会
- 1 3 日 (木) ・冬休み課題テスト(1,2 年生) ・実力テスト(3 年生)
- 1 4 日 (金) ・八幡小児童学校見学
- 2 0 日 (木) ・学年末テスト(3 年生)~21 ・PTA 3 役会
- 2 1 日 (金) ・英語検定 ・生徒集会

